

イーソーコ会長

大谷 巖一



物流業界のレッドオーシャン(競争の激しい市場)状態は、急激に進んだわけではない。1990年に制定された物流2法の規制緩和を皮切りに、約30年が経

「ダチョウ症候群」(ダチョウ症候群)に突入した。身の危険を感じたダチョウが砂の中に頭だけをうずめ、安全な場所に隠れたつもりになる例えだ。目の前になる問題や危険を直視せず、何もしないでやり過ごそうとする状態が続けば、中小物流会社は衰退し、いずれ消滅する。

過しようとしている今も続いている。筆者は10年前から、「ゆでガエル」の比喩で警鐘を鳴らしてきた。カエルを熱湯に入れると慌てて逃げるが、水からじわじわと温度を上げると、温度の変化に気づかず、ゆで上がった末に死んでしまう。近年は、「オストリッチ

物流不動産が開く新たな地平①

「ダチョウ症候群」脱せよ

サッカーの本田圭祐選手がセリエA(イタリア1部リーグ)の「ACミラン」に移籍した際、「バカ者・よそ者しか世界は変えられない」とインタビューで答えていた。筆者は大いに賛同した。永田町で「変人」と称されてきた小泉純一郎元首相は「自民党をぶっ壊す」と構造改革を断行し、郵政事業の民営化、道路関係四公団の民営化などを実現した。日産自動車は大改革した。減少に歯止めを掛けるため、共働き世帯の居住を支援する「職住近接」構想を掲げた。行財政改革に踏み込むことができたのは高

カルロス・ゴーン前会長は、「よそ者」のカテゴリーに入る。内部のしがらみに感わされることなく、大胆なリストラやコストカットで日産を立て直した。一方で、老舗のカネボウは、しがらみと付度で繊維事業からの撤退を断行できず、04年に経営破綻した。つい先日、千葉県流山市の井崎義治市長と対談する機会を得た。井崎氏は人口

改革には痛みを伴う。バカ者、よそ者、異端児、変人と称される人の方が実行

い志に加え、地域とのしがらみが無かったからだ。現在は「母になるなら流山市」のキャッチフレーズの下、全国政令指定都市と同等の年2・5%の人口増を続けている。流山インターチェンジ周辺では大手の物流不動産デベロッパーが先進施設を開発しており、物流の一大集積地となりつつある。

改革 変人・よそ者が有利

現した。

「よそ者・変人が物流を改革する!!」



何もしないでやり過ごそうとする状態が続けば、中小物流会社は衰退し、いずれ消滅する

「今やらずにいつできる」「俺がやらずに誰がやる」と心の中で叫び、物流不動産ビジネスの普及にまい進する。

「バカ」で、異端児、変人でもある。継承する家柄、のれんなどのしがらみはない。物流改革は天命だ。

既存の物流業界や不動産業界からよそ者扱いだ。筆者は減点主義に傾斜した物流業に不動産業を取り入れた「バカ」で、異端児、変人でもあ